

### 事務局よりお知らせ

患者安全推進ジャーナルでは、会員病院のさまざまな取り組みをご紹介していきたいと考えています。患者安全に関する現場の工夫や改善事例、誌面で共有したいテーマなどがございましたら、事務局まで情報をお寄せください。また、論文やレポートなどの寄稿も随時受け付けていますので、事務局にご相談ください。事例をご提供いただいた場合は、施設名が特定できないように内容を一部変更したうえで掲載いたします。

#### 次号のご案内

○特集「効果的な研修会運営のコツ」

○フォーラムレポート「平成25年度第3回地域フォーラム(倉敷)」

その他

(内容は変更する場合がございます)

### 認定病院患者安全推進協議会 患者安全推進ジャーナル企画部会

(五十音順、○=部会長)

- 寺崎 仁 (横浜市立大学附属市民総合医療センター 安全管理指導者、准教授)
- 上塚 芳郎 (東京女子医科大学 医療病院管理学 教授)
- 栗原 博之 (NTT東日本関東病院 専任医療安全管理担当者)
- 新村 美佐香 (医療法人五星会 菊名記念病院 医療安全管理室 室長)
- 長尾 能雅 (名古屋大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部 副病院長、教授)
- 橋本 徹 (公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 医療安全管理室 主任室員)
- 安井 はるみ (医療法人社団あんしん会 四谷メディカルキューブ 看護部長)
- 安田 信彦 (学校法人慈恵大学 参事)

### 担当執行理事

橋本 迪生 公益財団法人 日本医療機能評価機構

### 患者安全推進ジャーナル 第34号

2013年12月発行

発行 公益財団法人日本医療機能評価機構  
発行責任者 井原 哲夫(理事長)  
事務局 公益財団法人日本医療機能評価機構  
評価事業推進部 認定病院患者安全推進室(担当/横山)  
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル  
TEL.03-5217-2326 FAX.03-5217-2331  
編集・組版 有限会社ボンソワール書房  
印刷 イーセット株式会社

販売価格 会員病院1,000円(+税)、会員病院以外・個人3,000円(+税)  
・会員病院には毎号3冊をお送りします。追加購入の場合は上記の金額となります。

認定病院患者安全推進協議会ホームページ <https://www.psp.jcqh.or.jp/>

☆本誌の転載・複写についてはあらかじめ許諾をお求めください。



# 遠隔シミュレーション教育で、教育の質の担保と技術・知識の

国家公務員共済組合連合会（KKR）のシミュレーション・ラボセンター（井田雅祥センター長、通称：KS-lab）は、医療事故防止、医療の質と安全の向上を目指し、2006年にKKR病院群が運営している共済医学会の一部門として誕生しました。組織全体のシステムとして医療の質と安全の向上への取り組みを定着、動かそうと、年間を通じて、随時及び定時の研修の実施、出張シミュレーション講習や遠隔支援教育など、多様な教育プログラムを提供しています。その教育プログラムの中から、今回はインターネットを用いた遠隔シミュレーション教育をレポートします。

## KKR病院の全職員のための研修施設としての取り組み

KS-labでは、患者急変やアナフラキシーショック対応、内視鏡や血液浄化療法などの随時及び定時の研修のほか、ラボスタッフによる出張シミュレーション講習や共済医学会での講習など、実際の臨床現場での患者満足に貢献できるような教育プログラムを随時充実、2012年度の年間受講者数は1800人に達しています。

しかし、医療事故防止、医療の質と安全の向上を組織全体のシステムとして定着させ、動かすためには、KS-labでの研修や出張シミュレーション講習などのごく一部の人がしか利用できない教育プログラムには限界がありました。また、KKRの全病院にシミュレーション教育の専門家が存在しているわけでもなく、「すべてのKKR病院職員のために設立された研修施設」というKS-lab設立の目的実現と、KKR全体で医療の質と安全の向上を目指すためには課題がありました。

そこで、2010年度厚生労働省科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「医療の質・安全向上を目的としてシナリオをベースとしたフルスケールシミュレーターを用いた教育の有用性と遠隔教育の可能性」の研究を開始。その一環として、同年からインターネット回線を用いた遠隔シミュレーション

教育を試行、複数の病院で医療安全管理者を通じたファシリテーター（指導者）の選出と育成を行っています。

## 統一された教育研修の実施を実現

遠隔シミュレーション教育システムは<下図>の通りで、各施設のファシリテーターが講習を主催、インターネット回線を通じてKS-labからシミュレーターの操作や講習の支援を行うというもの。図中の病院Aで実施されるシミュレーション教育を、KS-labから遠隔支援することで、シミュレーション教育の質を担保できるほか、インターネット回線を使うことで、多施設からでも病院Aで実施されているシミュレーション教育の場を“見学する”ことも可能。各病院で活動しているファシリテーターたちにとっては、指導方法などの技術や知識の情報共有ができます。

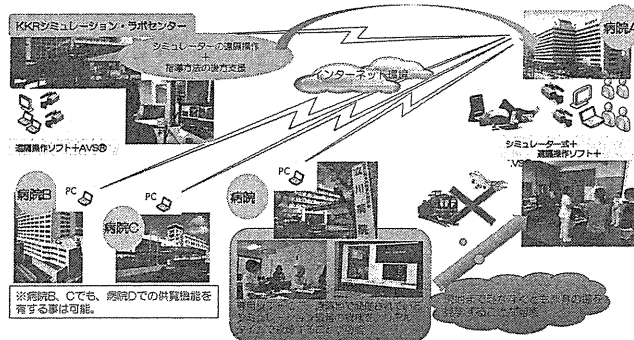
さらに、期待される効果としては、同時多発的に開催されるシミュレーション研修であっても、病院間での指導の内容や方法に差異を生じさせることなく、開催病院間で統一（均一）された教育研修の実施が可能となります。

## 災害医療への活用を検討中

KKRの遠隔シミュレーション教育システムは、災害医療への活用も検討されています。システムを構築したラボマネージャーの大森正樹氏（臨床工学

技士）は、「平時は教育用コミュニケーションシステムとして運用しますが、災害医療などの非常時に、災害医療を展開するKKR病院への支援に使用するコミュニケーションシステムとして活用できないかと考えています」と説明。「そのためには、BCP（事業継続計画）も策定する必要があると考えています。これからは、KKR病院における、教育用と災害医療用の両面を視野にいたれた検証を続け、並行してハードとソフトの両面も準備していく計画です」と将来像を話しています。

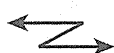
構築された遠隔シミュレーション教育システムの概要



# 情報共有を図っています。

## 遠隔シミュレーション教育<患者急変対応研修>

KKR札幌医療センター

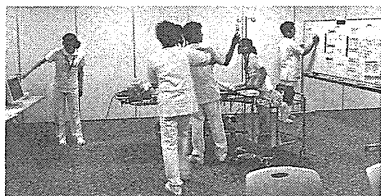


KKRシミュレーション・

ラボセンター



コース開始前のブリーフィング



シミュレーショントレーニング

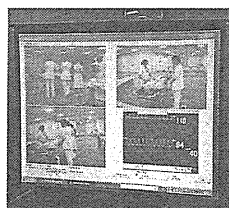
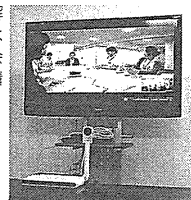


チェックリストを用いた評価

荒井マネージャーは、札幌医療センターの研修の様子をテレビ会議システムなどで観察し、その都度指示やアドバイスを送ります。



この日は看護師6人が受講。理解していない受講者を見逃さないよう、荒井マネージャーはテレビ会議システムで受講者の表情や聴講態度にも目を配ります。



座学や演習など研修の様子を最大4つの視点から観察。また、KS-labでも操作可能な現地のシミュレーターのパイタルを表示することもできます(右下)。



チャットは、後からの振り返りに非常に役立っています。

## 神奈川と北海道をネットをつなぎ 画像を見ながら声とチャットで遠隔教育

「まだ進めず、今しっかり役割分担の必要性を教えてあげた方が良いと思います」「分かりました」。9月26日、KKRシミュレーション・ラボセンター(以下、KS-lab)とKKR札幌医療センターの間で行われた遠隔シミュレーション教育の患者急変対応研修。KS-labの荒井直美ラボマネージャー(看護師)は、インターネットを通して札幌医療センターの研修に参加、ファシリテーターの看護師に指導方法をアドバイスしました。

荒井マネージャーは、「(受講生の)感想と実際の行動が合致しているか、このタイミングで録画映像を見てもらいましょう」「なぜそう思ったのか、受講生に聞いてみてください」など、気になる点があると都度指導。イヤホンで指示を受けたアシスタントのファシリテーターは即座に研修へ介入し、メー

ンのファシリテーターに情報を伝え、研修内容を立て直します。

また、荒井マネージャーは声でのアドバイスと同時に、チャット機能を使ってテキストでも指導内容を送ります。チャットは内容が記録されるため、細かい表現方法や説明の仕方などを後で振り返ることができ、効果的なデブリーフィングが行えるのです。

研修後、札幌医療センターのファシリテーターからは、「その都度アドバイスをいただけるので研修の質を一定に保つことができます。非常に良い取り組みです」「今の指導良かったです」と褒めてもらおうと大きな自信につながります」といった感想が挙がり、遠隔シミュレーション教育の目的である「教育の質の担保」につながっています。

